

巻頭言「新任のご挨拶—これからの厚生病院への思い—」	1
厚生病院健康公開講座開催報告 3月5日(日)開催「続・台所でできるがん予防」	2
災害拠点病院・厚生病院	3
栄養食事相談	3
7階地域包括ケア病棟では自宅訪問を行っています	4
新人看護師職員研修	5
リハビリテーション室	5
がん相談支援センター	6
新任部長からご挨拶	6
【図書室】気持ちが和らぐ「ほっとこーなー」のご案内	7
新任医師、退職・異動者の紹介	7-8

巻頭言

新任のご挨拶

—これからの厚生病院への思い—

今年度の異動で病院長を拝命いたしました。病院の理念にもありますように、患者の皆様へ信頼され、職員が働きがいのある病院を目指して頑張りたいと思いますので宜しくお願いいたします。紙面をお借りして、これからの厚生病院への思いをお伝えしたいと思います。

【施設長として】

鳥取県でも地域医療構想が策定され、更なる高齢化社会に向けた医療・介護の体制の見直しが求められています。鳥取県中部は県内でも少子高齢化と人口減少が特に著しい地域です。この地域での医療の将来に向けて、当院が公的病院としてどのように立ち回るかは全国モデルになる可能性があります。当院は経営基盤の確立と安定化という大きな命題を背負いながら、地域の中核病院として急性期医療機能を果たす役割を担い、その集約化に備えることが求められています。それに応え診療機能を強化するため医師・薬剤師をはじめとする人材確保が施設長に課せられた最重要課題と認識しています。即実践力も必要ですが、将来を見据えて学生・研修生の教育に力を注ぎたいと思い、臨床研修・教育センターを開設しました。若い学生や研修生で病院内が明るいまどになればと期待しています。

来年度には診療報酬と介護報酬の同時改定を控えています。地域包括ケアシステムの構築の中で、在宅支援も考慮しながら、地域の医療機関・介護施設と如何に連携を深めていくかが当院の重要課題

です。そのためには地域連携センターの機能を一層強化しなければなりません。また、患者・家族の皆様と職員が協働して健康の回復を考えていく時、円滑なコミュニケーションが不可欠です。地域連携センター内の患者相談窓口を明確化し、相互理解のために医療メディエーター機能も強化しながら、患者支援体制を拡充したいと思います。

病棟部分の老朽化が進んでいます。当面、大きな改修はできませんので、院内の美化に対する職員の理解を促し、節約と大切に物を使うムード作りに努めたいと思います。このことは患者の皆様へ病院内で気持ちよく過ごしていただくサービスの一つでもあると考えます。

【医師として、産婦人科医として】

30数年間、婦人科悪性腫瘍の診断と治療を専門分野として、子宮がんや卵巣がんの手術療法と化学療法に携わってきました。地域のニーズに応えることができるよう、地域がん診療連携拠点病院の診療の役割を果たすためにも専門的な診療業務に積極的に取り組んでいきたいと思っています。とは言え、産婦人科医の責務の基本は分娩の取り扱いです。助産師、小児科医師と協働し、地域の皆様が安心して分娩し子育てができる環境を守り、さらに充実させたいと考えています。それが全国的にも加速感が否めない少子化に歯止めをかける施策に繋がればと思っています。

院長 皆川 幸久

健康公開講座開催報告

3月5日（日）開催 「続・台所でできるがん予防」

平成27年9月の健康公開講座でご好評をいただいた「台所でできるがん予防」の続編として、食事とがん予防をテーマに井藤久雄前院長による公開講座を開催しました。

我が国で、がんが死因の第一位になったのは1981年であり、現在では2人に1人ががんになり、3人に1人ががんで死亡しています。

国立がん研究センターの予測では2015年のがん罹患数(新規がん患者数)は約98万人、死亡者数は37万人であり、2014年予測から罹患数約10万人、死亡者数約4千人増加しています。

がんは遺伝子の異常が積み重なって発生する慢性病であり、高齢化に伴って増加します。

発がん物質が遺伝子異常を引き起こしますが、発がんに関与する三大因子は、①喫煙(約30%)、②食事(約30%)、③感染症(ウイルス、細菌)です。両親から遺伝子異常を受け継いでがんが発生するのは5%程度と考えられています。

現在、遺伝子に影響を与えてがんを発生させる可能性のある発がん物質は約2千種類あります。太古から自然界に存在し、食物に含まれるカビ毒やワラビに含まれる毒、火を使うことにより生じた物質、近代工業の発達に伴い生じた合成化学製品・公害などがあります。

大部分のがんは生活習慣病に基づく慢性病です。WHO(世界保健機関)の考え方では、がんの1/3は予防が可能であり、1/3は早期発見で完治可能とされています。

一次予防としてがんにならないライフスタイルの見直し、二次予防として検診によるがんの早期発見・早期治療、三次予防として

定期健診が有効です。

また、時代とともに栄養学の常識も変わってきています。たとえば、以前は栄養価の高い食品が良いとされていましたが、今はバランスが良く低カロリーの食品が良いと言われています。具だくさんの味噌汁にはがん抑制効果が期待される、食物繊維はコレステロール値を低下させがん抑制効果が期待できるなど、がん発生に関与する食物もある一方、予防に役立つ食物もあります。

井藤 久雄

まとめ

- * 長寿社会では大部分の人ががんになる。がんで死なない工夫と努力が重要(天寿がん)
- * 発がんの三大要因; 食物、喫煙、感染症
- * 食生活を含むライフスタイルの見直しで、がん発生の危険率がある程度低下する。
- * 低塩、(低脂肪)、(低カロリー)
肥満あるいは低栄養の解消: BMIを20~27に維持
魚: 肉=1:1、
- * 早期発見のためにがん検診を有効に利用する
- * がん治療は手術、抗がん剤、放射線、がん免疫療法
→治療法の選択肢が増えている。

◆天寿がんとは: さしたる苦痛もなく、あたかも天寿をまっとうしたような超高齢者のがん

癌研究会癌研究所 北川知行元所長

次回健康公開講座のご案内

日時: 6月11日(日) 13時30分~16時

テーマ: がんの予防と治療

会場: 倉吉未来中心 セミナールーム3

入場は無料です。

災害拠点病院・厚生病院

厚生病院は、災害時の救急医療の拠点となる病院です。

拠点病院の条件としては、

- ①建物が耐震耐火構造であること
 - ②資機材等の備蓄があること
 - ③応急用資機材、自家発電機、応急テント等により自己完結できること
 - ④近接地にヘリポートが確保できること
- とされています。

これらの役割を果たすために、24時間緊急対応し、災害発生時に被災地内の傷病者などの受け入れおよび搬出、災害急性期に活動でき

る機動性を持った訓練を受けています。

当院では医療チームの派遣に備え、日々自己研鑽を行っています。

救急看護認定看護師 布廣浩二



▲合同訓練の一場面

栄養食事相談

厚生病院では、高血圧、糖尿病、脂質異常症、肝臓病、腎臓病などの食事制限が必要な患者様の栄養に関する相談や、化学療法等による食欲不振、嚥下障害などへの食事に関する相談などの栄養食事相談を行っています。

食事療法についての相談は予約制になっていますが、当日でも予約が可能です。平日にご家族の来院が困難な患者様の場合には日曜日にも対応しています。ただし、日曜日のご相談は、入院患者様のみを対象としていますのでご了承ください。

また、当院の専門スタッフが講師を勤める糖尿病教室や母親学級においても管理栄養士が関わり、集団栄養指導を行っています。

さまざまな疑問や不安に、栄養管理室所属の4人の管理栄養士が患者様のライフスタイルに配慮して、継続した支援を行っています。

そのほか、入院中のアレルギーの確認や、食形態、食欲不振対応などの給食内容に関する相談は病棟ベッドサイドで随時行っています。

相談を希望される方はお気軽に病院スタッフへお声掛けください。

栄養管理室長 鳥山千恵里



左から 林原管理栄養主任、鳥山室長、

竹内管理栄養士、船原副室長

7階地域包括ケア病棟では自宅訪問を行っています

厚生病院では、平成28年4月から地域包括ケア病棟を開設しました。

地域包括ケア病棟とは急性期の治療が終わり病状の安定した患者様に対して、在宅や介護施設への退院にむけて支援を行う病棟です。

安心して退院していただけるよう医師や看護師の医療スタッフのほかリハビリスタッフ・ソーシャルワーカー等の専門スタッフが、患者様やご家族の入院中の相談はもちろんのこと退院後の療養相談まで幅広く支援しています。



〔地域包括ケアカンファレンス〕

私たちは患者様の状況を把握しながら思いに寄り添った看護を提供するために日々カンファレンスを行い看護計画を立てて実施しています。

自宅へ退院される患者様に対して、退院前に自宅訪問を行います。患者様やご家族に自宅で生活されるにあたり心配なことを伺います。そして患者様が自宅で実際に動かされる状況を見て、居間や浴室内の手すりなどが必要か検討したり、薬については保管場所や内服方法も確認します。

退院前訪問の情報からリハビリ内容や内服自己管理方法などの看護計画を修正します。そして、自宅で安心して生活して頂けるように退院

へ向けて支援していきます。

退院後も自宅訪問をさせていただくこともあります。その場合は、患者様やご家族の表情を見ながら生活状況を伺い、必要があれば指導や支援を行います。そして、入院中の支援の見直しへつなげるよう、訪問させて頂いた後には訪問記録を作成し、振り返りを行っています。



〔自宅訪問〕



今まで訪問させていただいた看護師ほぼ全員が、患者様の入院時とは違う“終始笑顔で生き生きと生活されている姿”をみて、退院支援の役割のやりがいと重要性を感じたと報告しています。

今後も、皆様に安心して退院して頂けるよう地域包括ケア病棟としての役割を發揮できるようスタッフ全員一丸となって取り組んでいきます。

7階病棟師長 淡路緑

新人看護師職員研修

看護局は今年度、15名のフレッシュナースを迎えました。

入職者数としては近年の約2倍で、嬉しいと同時に緊張感もいっぱいのスタートですが、新人ナースを一人前に育てていく決意を新たにしているところです。

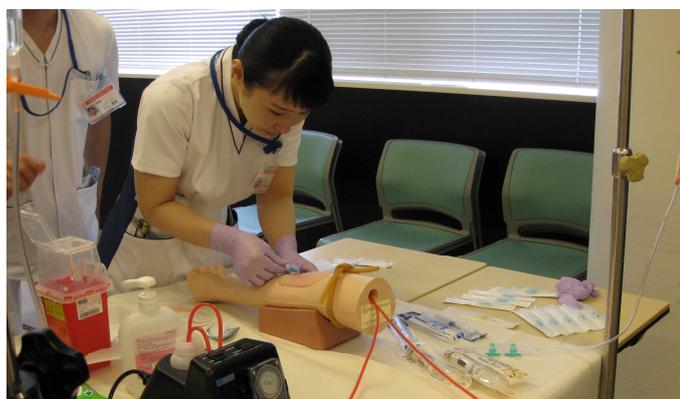
一方新人ナースは、集合研修で看護の知識や技術を再確認し、現場で先輩と一緒に実践して学ぶOJTを行いながら、新しい環境に適応し



ようと努力する毎日です。看護の専門職であると同時に、社会人であり組織人である、という点も育んでいく必要があると考えています。

当院で、看護師としての第一歩を踏み出した15名の今後の成長に期待していただくと共に、温かいご支援をよろしくお願ひします。

看護局副局長 松本比登美



リハビリテーション室

今年度、新たに3人のスタッフが加わり、総勢19名(理学療法士11名・作業療法士4名・言語聴覚士3名・医療助手1名)体制で、中部圏域を中心とした急性期の早期リハビリテーションの充実のため、日々奮闘しています。

現在、3連休以上の休日では中日を勤務としておりますが、今年度は毎週土曜日の勤務を視野に入れており、いずれは365日勤務体制の実現にむけて取り組んでいこうと考えております。

これからもできるだけ訓練回数を増やし、患者様に満足していただけるよう職員ひとりひとりが患者様に寄り添い、身体機能の改善、日常生活動作の向上など、患者様中心のリハビリテーションにスタッフ一丸となって取り組んでいきます。

リハビリテーション室長 松岡哲史



[リハビリテーション室]



がん相談支援センター

がん相談支援センターは、地域のがん患者様、そのご家族を対象に、がんに関するあらゆる相談に応じています。がんの治療に関すること、症状、副作用、セカンドオピニオンについて、生活や療養に関すること、医療費について、また、とりとめのない不安などの相談も受けています。

相談員は、厚生労働省が指定した研修会を修了した看護師、社会福祉士、臨床心理士が連携しながら対応しています。お気軽にご相談ください。

また、がん患者サロン「すずかけサロン」を毎

月2回開催しています。患者様・ご家族の参加をお待ちしています。

がん相談支援センター

副センター長 船越智美

がん患者サロン「すずかけサロン」

毎月 第1、第3火曜日 14時～16時

【お問合せ先】

がん相談支援センター

電話 0858-22-8181

新任部長からごあいさつ

血管外科 部長 西村 謙吾



4月1日付けで血管外科部長を拝命しました。

血管外科の扱う主な疾患は、腹部大動脈瘤、末梢動脈疾患(閉塞性動脈硬化症)、下肢静脈瘤、静脈血栓塞栓症、ブラッドアクセス(血液透析のシャント)などです。

厚生病院の多くのスタッフのみならず院外の医療関係者の方々と協力して、鳥取県中部の血管疾患の医療を守り発展させていきたいと思っておりますので、皆様方のご支援を引き続きよろしくお願い申し上げます。

地域連携センター センター長 船越 智美



4月1日付けで地域連携センター長を拝命しました。

地域連携センターは、高齢化の時代を迎え今後ますます必要とされている部署と考えています。院内の多職種との連携、さらに地域の医療、介護の関係者と連携をし、患者様のスムーズな受診と患者様とその御家族のよりよいQOL(身体的、肉体的にも満足できる生活)をめざして退院支援ができるよう活動しています。

地域連携センター全員で協力して、地域連携センターの機能強化につなげていきたいと考えています。よろしくお願い申し上げます。

【図書室】気持ちが和らぐ「ほっとこーなー」のご案内

厚生病院図書室に、県立図書館闘病記文庫10周年を記念して、新コーナー「ほっとこーなー」ができました。

この「ほっとこーなー」という名称には、皆様に「ほっ」と気持ちの和らぐ時間をすごしていただきたいという思いがこめられており、写真集や趣味の本、季節の本など、ページをめくって眺めるだけでも楽しめるような本を集めています。

この他にも、新聞、一般書、児童書、漫画、健康に関する本のコーナーなどがあり、どなたでも図書室内で閲覧できます。診察の待ち時間など、どうぞお気軽にお立ち寄りください。

図書室司書 山本佳子



◆図書室開室時間(平日のみ)◆

午前9時から正午まで

午後1時から午後4時まで

新任医師紹介

◀平成29年1月18日採用

▼平成29年4月1日採用

「ひとこと」
一月から厚生病院の小児科に赴任してまいりました。倉吉は初めての地であり仕事にも生活にも少しずつ慣れてきて充実した日々を送っています。みなさまのお役に立てますように頑張りますのでよろしくお願ひします。



小児科
すずき まさひろ
鈴木 将浩(専攻医)

「ひとこと」
一年ぶりに厚生病院に帰ってきました。一年間、岩手医科大学に腹腔鏡下大腸手術を勉強しに行っていました。学んできたことを中部地区の皆様にご提供できるように頑張ります。今後ともよろしくお願ひいたします。



消化器外科
みやけ たかひろ
三宅 孝典(医長)

「ひとこと」
はじめまして。四月から小児科で勤務することになりました倉信裕樹です。主に鳥取大学と榊原記念病院で小児循環器のトレーニングを受けてきました。まだ不慣れな点が多く、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、どうぞ宜しくお願いします。



小児科
くらぶ ひろき
倉信 裕樹(医長)

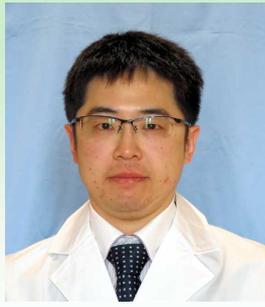
新任医師紹介 (平成29年4月1日採用)

産婦人科
みやもと けいすけ
宮本 圭輔 (副医長)



【ひとこと】
四月から厚生病院で勤務させていただきます。出身は鳥取市で、鳥取城跡の麓の辺りで育ちました。中部地区の皆様の役にたてるよう頑張りますのでよろしくお願いいたします。

消化器内科
さわだ しんたろう
澤田 慎太郎 (副医長)



【ひとこと】
この春から厚生病院に赴任してきました。鳥大卒業後十年目になります。内科および消化器の病気の診断・治療に加え、栄養療法にも力を入れて皆様へよい医療を提供していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

放射線科
こだに みか
小谷 美香 (副医長)



【ひとこと】
この春から厚生病院で放射線科医として、診断、IR業務に従事させていただきます。西部地区が長く、中部地区は初めてなので、早く環境に慣れてお役に立てるように頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

内科
おぐら みかこ
小椋 実佳子 (医師)



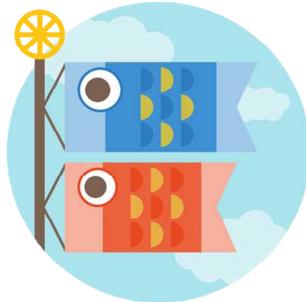
【ひとこと】
四月から勤務しています。内科の小椋実佳子と申します。昨年三月に、鳥取県立中央病院で初期臨床研修を終了しました。倉吉市は初めてです。地域の皆様のお役に立てるよう、頑張ります。よろしくお願いいたします。

研修医

たかみ あすか
高見 飛鳥



【ひとこと】
四月から厚生病院で研修させていただきます。北栄町出身であり、鳥取大学を卒業しました。地元である中部地区の医療に貢献できるよう精進いたしますので、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



退職・異動者

医師

呼吸器内科

石川 聡一郎 (十二月末付)

小児科

上栴 仁志 (一月十七日付)

院長

井藤 久雄 (三月末付)

副院長

阿藤 孝二郎 (三月末付)

小児科

奈良井 栄 (三月末付)

脳神経小児科

杉浦 千登勢 (三月末付)

放射線科

山本 修一 (三月末付)

消化器内科

長谷川 亮介 (三月末付)

前 ゆかり (三月末付)

産婦人科

森山 真亜子 (三月末付)

外科

大島 祐貴 (三月末付)

長期勤続退職者

看護局

森本 悦子 (三月末付)

花池 久子 (三月末付)

事務局

山本 涼子 (三月末付)

お世話になりました

編集 鳥取県立厚生病院 院内広報委員会
発行 鳥取県立厚生病院
〒682-0804 鳥取県倉吉市東昭和町150番地
電話 0858-22-8181(代) ファクシミリ 0858-22-1350

厚生病院のホームページも、ぜひご利用ください。パソコン、スマートフォンからご覧いただけます。
<http://www.pref.tottori.lg.jp/kouseibyouin/>

